

令和元年度

第2回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時 : 令和元年9月19日(木)
15:00~17:00

場 所 : 関東森林管理局
東京事務所 会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 木材の需給動向について

① 木材の需給、価格等の動向

② 関東局における国有林材の供給状況

(2) 国有林材供給調整の必要性について(審議)

3. 閉 会

令和元年度 第2回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県林業木材産業課 木材産業担当 課長補佐	川上 晴代
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	田中 幸夫
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	楡井 真一
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究コーディネーター(地域イノベーション推進担当)	堀 靖人

関東森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	佐藤 肇
資源活用課長	古澤 茂昌
企画官(木材需給対策)	渋谷 英夫
素材供給係長	齋藤 悠
供給計画係長	金澤 威一郎

令和元年度 第2回関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1. 開催日時・場所

令和元年9月19日（木）15:00～17:00

関東森林管理局 東京事務所会議室

2. 検討結果

需給動向や各委員からの状況報告等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する必要はない。

3. 概要（状況報告等）

（1）需給動向について

- 福島県では、8月に入りスギ3m柱取り材及び中目材が急伸し、品薄状態からの一時的な価格上昇が見られるが、長期的には保合となる見込みである。今後の入荷については、秋雨の影響が心配されるが、例年通り推移すると思われる。
- 栃木県では、スギ小径材・柱取り材は価格を戻しつつあるが、スギ中目材・ヒノキ柱取り材・土台材・中目材は低迷状態にある。ヒノキ中目材は、例年になく低価格状態となっており、14,000円/m³ 台の価格で取引されている。今後の見通しは、長雨の影響もあり虫害材が多く価格は低迷状態にあるが、9月に入り新材が出始めていることから、例年よりは多少遅れるものの、上昇に転じるとと思われる。
- 群馬県では、現在入荷している材は、虫害が多く価格が低下している。今後、新材の入荷増加に伴い販売量も増え、価格も上昇してくると考えている。
- 茨城県では、スギ3m柱取り材は引き合いも強く、13,000円/m³ 台に回復してきたが、一方でヒノキ材は弱含んでいる。素材の入荷状況については、民有林材は減少しているが、国有林材の入荷は順調であり、元落ちも少なくなっており荷動きも良い状況である。
- 静岡県では、天候の影響もあり、入出荷とも順調である。売れ行き好調の並材を中心に堅調な値動きとなっている。

（2）主な意見

- 関東では、ヒノキ柱材に対する需要が減少し、土台程度しか用途がなくなっているのが現状である。スギ・ヒノキとも用途が似通ってきているため、価格差がなくなりつつある。
- スギ丸太の中国向け輸出とフェンス材等の米国向け輸出は、関税25%への増税前の駆け込み輸出等により混乱していたが、現在は落ち着きを取り戻しつつある。
- 柱・梁・桁は大分部が集成材にとって代わられたが、今後は、残る土台・母屋・大引・根太・間柱も集成材やLVLに押されるのではないかと。